
もんじゃ。

奥田徹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もんじゃ。

【Nコード】
N1691W

【作者名】
奥田徹

【あらすじ】
友人ともんじゃ焼きを食べた。友人は昨日、横断歩道で信号待ちの時、目の前の店で送別会をやっているのを見たと話す。友人は何やら抱えていた。

一度大雨が降り、暑さが多少和らいだ八月の後半。

そうは言っても、気温は連日当たり前のように三十度を超え、

雨の影響からか、かなり蒸し暑く感じた。

あの嫌がらせの如く続いた焼ける様に暑い日より汗の量は多い気がした。

気温、湿度、体温、汗。

日々変化し振り回される毎日の中で、今日も誰かは不健全で、誰かは失望し、誰かは何かしら希望を見つけ、小さな溜息を吐いている。

「やっぱ手早いね」

「そう?」

僕は鉄板にもんじゃ焼きの具だけを慎重に乗せると、

掻き混ぜ千切りのキャベツを両手に持ったヘラで、カタカタカと細かく砕く。

具で円を作り、真ん中に汁を注ぐ空間を作り、

「いいよ。入れて」

と僕が指示し、

友人の阿藤が溢れない程度汁を注ぐ。

「昨日さ、信号の先の並木通りの店で、送別会みたいなやつてさ」

汁がある程度煮込まれ、焼き色がついた頃、周りの具と併せ掻き混ぜる。

僕の手つきを眺めながら、阿藤が話す。

「信号待ちで何となく眺めてたんだけどさ」

「うん」

「あれはブランド品の店なんかな？女の店員が店の前を出たり入ったりしててさ」

「なんで？」

「一人がプレゼント持って外で待機してるの。で、一人出てきて、プレゼント持ってまた入るみたいなの」

鉄板からジュージューと具を混ぜる度、心地よい音がして、香ばしい匂いが食欲を刺激する。

再びドーナツ状に円を作り、

「いいよ。全部入れて」

阿藤が残りの汁を入れ、グツグツと汁が固まり、

「ベビースター入れて」

全体的にパラパラとベビースターを塗す。

良い頃合いで一氣に混ぜて薄く広げる。

「何かさ、それ見てたら、キュンとしちゃってさ」

「何が？」

「だって、楽しませようとプレゼント後ろに隠して店に戻ってさ。パツと差し出したりして、

あ、喜ばせようとしてるって…健気じゃね？」

「何だよそれ」

端の方から段々と下部が焦げ付いて行き、ハガシと呼ばれる小さなヘラで一口サイズに取り、ジュツと鉄板に押し付け、クルツと回転して、口に運ぶ。

もんじゃは焦げと焦げ寸前の間を味わうのが醍醐味。

「熱っ…う、うま」

ジユツ、クルツ、熱っ。

「信号なんかとつくに青になってるのにさ、動けなくてさ。
何だろうな…熱っ…」

火が通った周りを崩す様にもんじゃを食べていく。

小麦粉のだし汁に入ったウスターソースの味とベビースターの味が
絶妙な味加減で交わっている。

「まあ、無理矢理、理解しなくても良いんじゃない？」

「ん？うん」

「プレゼント渡してた。楽しそうだった。キュンとした。十分だろ」

「十分か…まあな。」

一枚目のもんじゃはあっという間に無くなり、

「次、チーズ明太もんじゃにしない？」

「お、いいね」

阿藤の提案に乗り、僕は奥の店員に声をかけチーズ明太もんじゃを
注文した。

「もんじゃ、いいな」

「もんじゃ、いいよ」

八月の終わり、夏の暑さ。

僕等はいつの間にか何かを抱え、心を震わせ立ち止まる。

曖昧さに怯え、もんじゃを食う。

「チーズは後だな」

と僕が言つと、安藤が何故か泣いていた。

「どうした？」

実はこの瞬間、阿藤は自殺を止めようと思ったらしい。

そんな事とは露知らず、

僕はキャベツを砕く。

「幸せだな」

と阿藤が言った。

「そうか？」

と言いながら、

そうかもなと、僕も思っていた。

（後書き）

体力、気力共に絶不調です。夏バテかしら。地道に頑張ります。（
< | >）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1691w/>

もんじゃ。

2011年10月9日03時05分発行